

英語 Here We Go! 相談室 教育

特集

指導に生きる評価のヒント

Let's enjoy! Small Talk

食べ物

子どものためのBOOK GUIDE

My Cat Likes to Hide in Boxes



What's
this?

from
Thailand



ミニサイズの野菜の置物のように見えますが、これは実はルーク
チュップという名前のお菓子です。大きさはさくらんぼぐら
いで、緑豆の餡^{あん}をゼリーで包んだものです。ゼリーのぷちっと口の中
ではじける食感、その後に続く、優しい甘さの餡が絶妙な味！ タイの
市場の屋台で20バーツ(約70円)ぐらいで売られています。

他にも屋台には、南国らしい素材を使ったお菓子がいろいろ。ココ
ナッツを生地に混ぜ込んだり細切りにしてのせたり、パンダンという
植物を使って緑色に着色したり香り付けしたり。

こういった昔ながらのお菓子は、よその国と同じように若者や子
どもにはあまり好まれていないようですが、和菓子が好きな方にはおす
すめの味なので、タイで見かけたらぜひご賞味ください。

梅本昌男／タイ・バンコク在住 海外書き人クラブ会員

写真のダウンロードは
こちらから



ルークチュップの他に
も、タイのお菓子や屋
台の様子がわかる写真
を用意しました。授業
などにご活用ください。



英語 Here We Go! 相談室 教育

2 0 2 1
| No.09 | C O N T E N T S

What's this?
ルークチュップ
<from Thailand>

特 集

02 指導に生きる評価のヒント

03 [小学校] 5年生1学期の実践と評価 山川 拓

充実した指導が導く
児童と教師のための評価
東 仁美

年間を見通した評価計画の重要性
加藤拓由

09 [中学校] 評価の悩みに答えます！ 監修：太田 洋・長沼君主 マンガ：赤松かおり／制作：トレンド・プロ

太田先生、長沼先生の
「評価」のお悩み相談室

連 載

16 Let's enjoy! Small Talk [Lesson2] 食べ物 窪田 遼

18 子どものための BOOK GUIDE [第9回] My Cat Likes to Hide in Boxes 金原瑞人

指導に生きる 特集 評価のヒント

新しい学習指導要領が実施され、
小学校は1年半、中学校は半年が経過しました。
英語の学びの変化に伴って、
学習評価のしかたも今までとは大きく変わっています。

評価規準の設定や、実際の評価の方法について、
悩みをもたれている方も多いのではないのでしょうか。
本特集では、そんな「評価」の悩みに向き合い、
さまざまな角度から、指導に生きる評価について考えます。

小学校外国語では、5年生1学期の授業を行う中で、
何をどう評価したのか、
やまかわたく 山川拓先生(京都市立九条塔南小学校教諭)にご紹介いただきます。
そして、その実践について、ひがしひとみ 東仁美先生(聖学院大学教授)と
かどうひろゆき 加藤拓由先生(岐阜聖徳学園大学准教授)に解説していただきます。

中学校英語では、評価の基本的な考え方や大切にしたいポイント、
日々の授業の中での悩みや疑問などについて、
おおたひろし 太田洋先生(東京家政大学教授)とながぬまなおゆき 長沼君主先生(東海大学教授)に
解説していただきます。

小学校

5年生1学期の**実践**と**評価**



京都府京都市立九条塔南小学校教諭
やまかわ たく
山川 拓

はじめに

私は今年度、「外国語アドバイザー」という
形で各学年に関わりながら、どの担任の先生も
外国語や外国語活動の授業をスムーズに行える
ようになることを目指しています。特に本校の
5年生の先生方は、外国語科が設置されてから
初めて高学年の担任となり、外国語の授業にと
ても不安を抱いておられました。そこで、教材
研究の段階で学年会に入り、単元のゴール、ゲー
ムやアクティビティのやり方、教室英語などに
ついて一緒に相談しながら決め、時には事前練
習もしながら、当日の授業に臨むようにしまし
た。

評価の全体計画

年度当初に行われた学年会では、教科書や指
導書、京都市が作成している指導計画や昨年度
の指導実践をもとに、「どの単元の、どの活動
で、どんな観点の評価をしていくか」という評
価の全体計画について話し合いました。外国語
科では評価の3観点について、「聞くこと」「読
むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発
表]」「書くこと」の5領域において、年間を通

してバランスよく評価することが求められてい
ます。そのため、どうしても「1学期の中です
べての項目を評価しなければならない」という
考えをもたれがちです。そこで、年間を通した
評価計画を示しながら、「評価する項目」「評価
しない項目」を整理し、以下の点について確認
をしました。

- 学習の初期段階に当たるので、「読むこと」「書くこと」は、活動として行う場面もあるものの、記録に残す評価としては扱わない。
- 「聞くこと」はUnit 1～3の単元全体を通して評価する。
- 「話すこと[やり取り]」はUnit 2の単元末のパフォーマンス・チャレンジでも評価する。
- 「話すこと[発表]」は、Unit 3のグループ発表で評価する。

図1(p.4)は、これらを簡単な表に整理したものです。年度当初の計画なので、実際に授業を進めていく中で評価がうまくいかなかったり、さらに細かく評価する必要が出てきたりしたときには、評価場面を追加するなどしながら、学びの様子を記録していくようにしました。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	Unit 1-④ Unit 2-② Unit 3-④		Unit 1-③ Unit 2-⑦ パフォーマンス・ チャレンジ	Unit 3-⑦ (発表会)	
思考・判断・表現	Unit 2-⑥ Unit 3-⑥		Unit 1-⑥ Unit 2-⑦ パフォーマンス・ チャレンジ	Unit 3-⑦ (発表会)	
主体的に 学習に取り組む態度	参加の様子 振り返り		参加の様子 振り返り	参加の様子 振り返り	

※丸付き数字は各Unit内での時数を表す。(例:Unit 1-④…Unit 1の4時間目)

図1 5年生1学期の評価計画

実践1 Unit 1&2「話すこと[やり取り]」 ——Response+1を目ざして

5年生の児童は、4年生までの外国語活動の中で、英語を使ったやり取りを楽しみ、伝える喜びを味わってきました。英語を使って活動することが好きな児童が多かったので、Unit 1と2では、英語を使ったやり取りのレベルアップを目ざしました。具体的には、質問して答えるだけではなく、反応(Response)を加えたり、さらに1文追加してやり取りを2往復、3往復と増やしたりしていけるような取り組みを進めました。Let's listen.の中で登場人物が使っている表現に注目して、使う場面を考えたり、友達に対して使ってみたりすることで、やり取りに広がりをもてるようにしました。まだまだ定着しているとはいいがたいのですが、Responseを心がけながらやり取りをする児童も増えてきたように思います。

京都市ではUnit 2の終わりに「パフォーマンス・チャレンジ」として指導者と個別にやり取りする機会を設けています。そこで、この機会

を利用して、「ALTの先生に自分のことを知ってもらおう」ということを児童に伝えました。ただ、ALTの先生は日程の都合で来られなかったので、代わりにJTEとして私が、英語のみで児童と1分程度のやり取りの時間を取るようにしました。図2(p.5)はパフォーマンス・チャレンジのループリックです。これは、『Here We Go!』の評価資料にあるループリックをもとに作成しています。

パフォーマンス・チャレンジの時間には、これまで学習してきた表現を使ったやり取りができていることに加え、指導者があえて聞き間違いや返答を確認するような言葉を入れ、児童がどのような反応をするかを見ました。また、最後には児童が指導者へ質問をする時間も設定し、その内容や指導者が答えたときの反応なども見るようにしました。個別の時間が終わった後に^{あんど}安堵した顔を見せる児童や、まだまだ話し足りないという様子の児童もいて、このパフォーマンス・チャレンジの時間に、意欲的に取り組む様子が見えました。

実践2 Unit 3「話すこと[発表]」 ——聞き手を意識した発表を目ざして

5年生の児童は、これまでの外国語活動で、指導者と一対一での発表は経験していましたが、「みんなの前で発表する」という経験がありませんでした。そこで、Unit 3の「夢の時間割づくり」では、一人が一つの曜日を担当して、6時間分の予定を考えて発表するようにしました。また、既存の教科だけでなくオリジナル教科を入れてもよいことを伝え、夢の時間割の幅を広げるようにしました。発表については、単元で学習する単語や表現を使うことが基本になりますが、「相手によりわかりやすく伝えること」を意識するよう伝え、自分のお気に入りの教科やその理由をひと言追加して発表できるようにしました。

発表会では、「自分の英語をみんなの前で知ってもらおう」という初めての活動に緊張している児童も見られましたが、前時までに友達と練習を重ね、アドバイスをし合いながら準備を進め

ていたこともあり、すべての児童が最後まで発表をやりきることができました。言い方やジェスチャーなど、グループごとに工夫しているものもあり、「どんな発表をするのかな」とお互いにワクワクしながら聞き合う様子も見られました。

なお、Unit 3のグループ発表では、「学習した語彙を正しく使って発表しているか」で【知識・技能】を、「理由を追加するなど、聞き手により自分の思いを伝えられるような工夫をしているかどうか」で【思考・判断・表現】を、そして、「発表そのものを最後までやり抜く姿や、毎時の振り返りの内容で自己調整する姿」で【主体的に学習に取り組む態度】を評価しました。

【主体的に学習に取り組む態度】の評価

【主体的に学習に取り組む態度】については、「粘り強い取組を行おうとしている側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の二つがあることはご存じのことと思います。特に後者については、活動の様子を観察するだけでは

観点	項目	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する
知識・技能	語句や表現の使用	自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、学習した語句や表現に既習のものを加え、伝え合っている。	自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、学習した語句や表現を使って伝え合っている。	一人では、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について伝え合うことがまだ難しい。
思考・判断・表現	やり取りの流れ	お互いのことを知るために、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、内容を加えながら相手に伝えたり、相手の話すことに反応するだけではなく一言付け加えたりして、伝え合っている。	お互いのことを知るために、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、相手に伝えたり、相手の話すことに反応する表現を返ししながら伝え合っている。	一人では、伝え合ったり、相手の言うことに反応したりすることがまだ難しい。
主体的に学習に取り組む態度	相手意識・伝える工夫	相手に伝わりやすいようにジェスチャーを工夫して伝えたり、相手の理解度を確かめながら、わかりやすく伝え合おうとしている。	相手に伝わりやすいようにはっきり伝えたり、相手の話すことにうなずいたりしながら、伝え合おうとしている。	一人では、相手を意識しながら、工夫して伝え合うことがまだ難しい。

図2 評価の観点(Unit 1+Unit 2の項目)

評価が難しいところです。

そこで、毎回の授業後に「学習の振り返り」を行う時間を設定し、外国語科のファイルに振り返りプリントを綴じて残すようにしました。プリントでは、Let's listen.やLet's try.など、その時間に取り組んだ活動について、CAN-DO形式で問うようにします。CAN-DO形式ではありますが、「できる・できない」の2択ではなく、「どこまでできるようになったか」に目を向けるため、4択でいちばん近いものに丸を付けるようにしています。これを積み重ねることで、「できなかった」という思いではなく、「できるようになってきた」という自己有用感を高めていくことを目指しています。また、自由記述欄には「知ったこと、わかったこと、考えたこと、これからがんばりたいこと」を記述することを伝え、振り返りの中で、メタ認知的に自分を捉えたり、自己調整したりする視点を身につけていけるように工夫しました。

You Can Do It!の前には、児童とパフォーマンスの評価観点(図3)を共有し、単元の目標に加え、児童自身の目標を設定するようにしました。振り返りの活動を続け、また過去のプリントを見返しながら自身の成長を考える機会をもつことで、少しずつではありますが、「これまでの姿から未来のことを考える」振り返りの様子が見られるようになってきています。

2学期に向けて

担任の先生方と一緒に授業づくりを行ったり、授業の中で児童の学びの様子を見たりする中で、各領域における評価について、「見取り方」というものが少しずつ見えてきた一方、実践を積み重ねるほど、評価することの難しさを実感しています。

U3 What do you have on Monday? 月日

Goal: 教科や曜日など、時間割を伝えることができる。

■自分のめあて。

A 自分の「夢の時間割」を伝えることができますか。

まだ むずかしい	友だちや先生のサポートがあれば	教科や曜日の時間割を伝えることができる	習った表現を使って文を追加して
-------------	-----------------	---------------------	-----------------

B 聞き手に自分の思いを伝えられるような発表ができますか。

まだ むずかしい	友だちや先生のサポートがあれば	自分の考えた時間割を、はっきりと伝えられる	理由をつけました。お題に及ぶの教科を伝えたりできる
-------------	-----------------	-----------------------	---------------------------

C 学習した表現をまちがえずに使って、最後まで発表できますか。

最後まではまだむずかしい	原こうやお手本を見ながら	時々はまだがえるが、最後まで	つまずかず、最後まで
--------------	--------------	----------------	------------

■今日の学習を振り返りましょう。また、発表本番に向けて、準備や改善が必要だと思うことを書きましょう。

5年 組 番 名 姓 _____

図3 パフォーマンスの評価観点

その中でも、「5領域の中のいわゆる『受容スキル』をどのように見取るのか」というところには課題を感じています。「聞くこと」についての評価では、各単元のLet's listen.での様子や、パフォーマンス・チャレンジでの指導者からの発話への反応をもとに評価を行いました。しかし、特に【思考・判断・表現】の評価については「この方法で正しく評価できているのか」という疑問が残りました。「聞くこと」の【思考・判断・表現】を評価するためには、「正しく聞き取れているか」にとどまらない「聞き取り活動」が必要となります。Let's listen.などを活用して評価するためには、音声や映像を視聴させる前に、児童の思考や判断が伴うような問いかけを行ったり、思考の過程が見えるようなワークシートを活用したりすることも必要になります。児童への過度な負担とならないように、

またやる気を失わせないようにしつつも、【思考・判断・表現】する姿を見取るためにどのような活動を行うのがよいのか、今後も試行錯誤が求められそうです。

また、【主体的に学習に取り組む態度】の「自己調整」については、児童が「自己調整の方法」を知ることが必要であり、自己調整する場面が確保されなければ見取ることはできません。さらに、自己調整する力は、外国語科だけで身につくものではありません。そのため、例

えば振り返りのしかたをすべての教科・領域で統一したり、発達段階に応じた振り返りのしかたについて学校全体で議論をしたりしていかなければならないでしょう。

評価についてはまだまだ課題も多いのですが、それを解決しようと模索することは、児童の成長を見取る活動を見だし、授業力を向上させることにもつながります。2学期以降も、児童が自ら学びを深め、育っていく姿を見取れるよう、取り組みを続けていきたいと思います。

充実した指導が導く 児童と教師のための評価



ひがし ひとみ
東 仁美

聖学院大学教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。
光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。
著書に『小学校英語 はじめる教科書 改訂版』(共著/mpi松香フォニックス)など。

学習評価に関する資料を読んでも、いまひとつはっきり伝わってこない「**実際**」の指導と評価。山川先生の報告には、「これが知りたかった!」と思える5年生1学期の評価実践がわかりやすくまとめられています。公立小学校での実践で、評価についてこれだけ緻密に計画できるということは、多くの先生方の励みになるでしょう。山川先生の評価計画が優れている理由は、①昨年度の評価実践をもとに今年度の実評価計画を立てている、②指導体制や授業準備が充実しており、そのことがすばらしい実践につながっている、③「話すこと[やり取り]」のパフォーマンス・チャレンジのねらいが明確で、

児童の実態に合わせて作成されたループリックが活用されている、④「話すこと[発表]」では、指導の中で【思考・判断・表現】を見取れるような発表の工夫がなされていること、等が挙げられます。

小学校の教育課程全体で指導と評価を捉えており、学校が児童をどう育てていくかという、評価のその先までを考えさせられる実践です。「聞くこと」の評価に関しては多くの課題があることも認識しており、「聞くこと」の【思考・判断・表現】の見取りをどのように工夫されていくか、今後が楽しみです。

年間を見通した 評価計画の重要性



かとう ひろゆき
加藤拓由

岐阜聖徳学園大学准教授。
光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。
著書に『小学校英語「5領域」評価事例集』(共著／教育開発研究所)など。

山川先生は、年間を通じてバランスのよい評価計画を立案しています。右の表は、九条塔南小学校が、内容のまとまりごとに「記録に残す評価」を、年間でどれくらい行っているかを一覧にしたものです。「聞くこと」の活動の割合がもっとも多く、次に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」、そして「読むこと」「書くこと」の割合は少なくなっています。学習指導要領でも、「音声で十分に慣れ親しんだ表現を、読んだり、書いたりする」と記されています。このように、年間を見通した評価計画を立てることで、教師は、場面を精選し、より効果的に指導と評価を行うことができるのです。

また、「話すこと[やり取り]」はUnit1とUnit2を合わせて指導し、Unit2の終わりにALT(JTE)との個別のインタビュータイムを設けています。単元をまたいだダイナミックな評価計画を立てることで、児童はロングスパンで繰り返し表現に出会い、より深い言語活動を行うことが可能

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	合計
聞くこと	9	8	8	25
話すこと [やり取り]	6	6	6	18
話すこと [発表]	3	3	3	9
読むこと	2	2	2	6
書くこと	2	2	2	6
合計	22	21	21	64

「記録に残す評価」の年間実施回数

になります。

さらに、【主体的に学習に取り組む態度】の評価では、具体的な活動の振り返りをCAN-DO形式で自己評価させ、児童のメタ認知を促進し、自ら目標を設定させます。粘り強く学習に取り組ませることで、児童の学びに向かう力を伸ばす工夫が見られます。



山川拓先生の実践(p.3～7)の関連資料は、
光村図書ウェブサイトよりダウンロードすることができます。

紙面で紹介されている資料に加えて、
振り返りやパフォーマンス評価のための資料などもございます。ぜひご覧ください。

中学校

評価の悩みに答えます!

中学校で新しい学習指導要領が全面実施されてから半年。今までとは異なる観点で評価を行う中で、さまざまな悩みがあるのではないのでしょうか。今回は、先生方から実際に寄せられた疑問や悩みに、太田洋先生と長沼君主先生がお答えします。

The comic strip is set in a cafe named 'Owl' (オウル). It features three main characters: Yuki Kato (吉井久美), Hiroshi Ota (太田 洋), and Junichi Nagano (長沼君主). The plot revolves around the challenges of implementing the new curriculum's evaluation standards. Yuki is a teacher who is struggling with the new standards. Hiroshi is a master of the cafe who offers advice. Junichi is a student who provides a different perspective. The comic includes a table of evaluation standards and a list of evaluation criteria.

**「オウル」店員
ながぬまおゆき
長沼君主**

**よしき くみ
吉井久美
光村中学校英語教諭**

はあ
今学期の評価
どうしよう

ここは悩める先生が
集まるカフェ「オウル」

私、その
中学校の英語教師
なんですけど

3観点の違いも
よくわからないし
評価のつけ方も
ピンとこなくて……

何か
お悩み
ですか?

「オウル」マスター
おおた ひろし
太田 洋

実は評価の
ことで
悩んでいて……

知識・技能
＝場面・状況の中で
正しく言語材料を使って
いるか

思考・判断・表現
＝コミュニケーションの
目的・場面・状況に応じて
適切に英語を使っているか

主体的に学習に取り組む態度
＝粘り強い取り組みを行う中で
自らの学習を調整しようとしているか

英語の
学習評価
における
評価規準は
こちらの
とおりです!

なるほど……
そういった方
多いんですね

それでは
評価規準から
簡単にご紹介
しましょう!



監修: 太田 洋・長沼君主/マンガ: 赤松かおり/制作: トレンド・プロ

太田先生
長沼先生の

「評価」のお悩み相談室

Q.1 「主体的に学習に取り組む態度」はどのように見取ればいいのですか?



「主体的に学習に取り組む態度」とは、粘り強く諦めないで取り組む姿勢と、自ら学習を振り返って、次の学びに向けて目標を設定し、改善していく態度(自己調整力)のことで、特定の領域や単元だけでなく年間を通して評価します。普段の授業ではCAN-DOリスト(図1)を活用し、言語活動体験に基づいた振り返りを生徒自身にさせて自律的な学習態度を養わせたり、教師がフィードバックを示してあげたりするのもいいでしょう。日々の授業は単元末活動へ向けたプロセスなので、毎時間、記録を残す必要はありません。



生徒に**形成的評価**をきちんと返すことは、自己調整力につながります。教師が学習の達成度をフィードバックして生徒に「気づき」を与えることで、生徒自身も主体的になります。「気づき」を与えて自己調整力を養う工夫として、生徒に目ざしたいと思わせるような、モデルとして機能するパフォーマンス例を、通常の授業の中で示してみてください。B評価のモデル例を示してA評価までの学びの伸びをイメージさせたり、あえてC評価のモデルから適切でない箇所を気づかせて自発的に改善させたりするようなモデル共有のしかたをすると、生徒の「気づき」につながりますよ。

CAN-DO List

英語の理解と表現の5つの技能目標について、それぞれどのくらいできるか、自己評価をしてみましょう。自分の成長を確かめるためにも、1年間に3回程度は自己評価をしてみるとよいでしょう。

1年生の目標: 自分のことや日常生活について、まとまりのある内容を伝え合うことができる。			
理解	技能目標 (CAN-DO)	関連する主な教材	自己評価
	L-0 はっきりと話されれば、音声聞いて、書かれた文字と一致させることができる。	Let's Be Friends! 6, 7 Sounds and Letters Unit 4-8 Story	まだできない 助けがあればできる ひとりでできる 自信をもってできる
Listening	L-1 はっきりと話されれば、日常会話について、具体的な情報を聞き取ることができる。	Unit 1, 2, 3, 4, 8 Goal You Can Do It! 2 Daily Life 5 World Tour 1, 2	まだできない 助けがあればできる ひとりでできる 自信をもってできる
聞く	L-2 はっきりと話されれば、ストーリーや日常会話について、おおまかな内容を捉えることができる。	Unit 1-8 扉 Listen	まだできない 助けがあればできる ひとりでできる 自信をもってできる

図1 『Here We Go!』1年
巻末CAN-DO List

Q.2 「読む・聞く」の中で、「思考・判断・表現」を具体的にどう評価すればいいのですか？



「読む・聞く」では、場面や状況を踏まえ、目的に応じて必要な情報や要点、概要を捉えているかを見取り、評価します。すべての情報を画一的に理解しようとするのではなく、めりはりをつけた理解が重要となります。『Here We Go!』ではUnit末のGoalページに、アウトプット活動につながる「読む・聞く」の活動が用意されているので、評価の材料として使えます。



例えば『Here We Go!』2年Unit 3のGoal「メールで予定を伝えよう」(図2)には、メールからその人物の予定や希望など、必要な情報を読み取る活動が用意されています。また、Daily Life Scene 7の「観光案内」(p.13図3)には、音声案内を聞いて概要を捉える活動や、観光案内から必要な情報を読み取って、要望に合う場所を見つける活動があります。ペーパーテストを作る際は、こういった教科書の活動を参考に、目的に応じた情報を読み取ったり、読んだ内容をもとに思考を促したりするような問題を意識的に設けると、「思考・判断・表現」の評価がしやすくなります。普段の授業の中でも、目的に応じた読み方の練習を取り入れていけるといいですね。

Goal

メールで予定を伝えよう

Read Write

Reading

p. 34 の Tina からのメールに Kota が書いた返事を読んで、下の質問に答えましょう。

From: Imura Kotaro

To: Christina Rios

Subject: My Flight

Hi, Tina.

Thanks for your e-mail. I will finish packing tonight.

I will borrow some sunglasses from Hajin. I want to buy a hat in New York.

So if you have time, please take me to a clothes shop.

My flight will arrive at the airport at 7:40 p.m.

I am going to bring Japanese fans as souvenirs for your grandparents.

I am really looking forward to seeing you. I can't wait!

See you soon!

Kota

[76 words]

New Words

e-mail [i:mēil]

tonight [tɒnaɪt]

borrow [bɒraʊ]

clothes [kləʊz]

shop [ʃɒp]

Words And Phrases

メールを書くときに

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

図2
『Here We Go!』2年
Unit 3 Goal

Q.3 3観点を意識したペーパーテストの作り方がわかりません。特に、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を見る問題をどう区別すればいいのでしょうか？



先生方は、当該学期で扱った文法事項を使っているかどうかをペーパーテストで見たいので、どうしても文法問題を優先しがちです。文法問題で見取れるのは、既習の言語材料を理解して正確に使っているかを見る「知識・技能」の部分です。

「思考・判断・表現」については、コミュニケーションの目的・場面・状況に合わせて適切に「知識・技能」を活用しているかを見取る問題を作らなければなりません。また「思考・判断・表現」の問題には、必ずしも当該学期で習った言語材料を使う必要はない、ということに留意しましょう。



テストはきちんと大問ごとに「知識・技能」「思考・判断・表現」を区別して作るようにしてください。「思考・判断・表現」だけでなく「技能」も、文脈から切り離れた知識としてではなく、状況や場面の中でどのように使うべきかを意識させ、より生きた力を測るようにします。学期末では、各単元で学んだことを統合した問題を出せると望ましいでしょう。

詳しくは、国立教育政策研究所のサイトで公開されている『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校編 外国語)」事例1(p.47)を参考にしてみてください。

Daily Life

Scene 7

観光案内

あなたはボランティアとして観光案内所にいます。海外からの観光客が必要としている情報をいっしょに探すには、どのような点に注意して、案内を聞いたり読んだりする必要がありますか。

(1) Hokkaido

(2) Fukui

1. 山梨・長野・岐阜・愛知から旅行先を選びたい観光客から、次の3つの要望がありました。右の各県の案内を読み、それぞれの要望に合う情報を探してください。

(1) I'd like to see a Japanese castle. (~~~~)

(2) I want to relax at a hot spring. (~~~~)

(3) I like Japanese noodles. (~~~~)

2. 各県の案内情報によると、上の(1)～(3)の要望全てを満たすのはどこでしょうか。()

104

one hundred and four

Goal

Listening

Reading

観光案内

あなたはボランティアとして観光案内所にいます。海外からの観光客が必要としている情報をいっしょに探すには、どのような点に注意して、案内を聞いたり読んだりする必要がありますか。

WELCOME to JAPAN

Yamanashi

Gifu

Nagano

Aichi

1. 山梨・長野・岐阜・愛知から旅行先を選びたい観光客から、次の3つの要望がありました。右の各県の案内を読み、それぞれの要望に合う情報を探してください。

(1) I'd like to see a Japanese castle. (~~~~)

(2) I want to relax at a hot spring. (~~~~)

(3) I like Japanese noodles. (~~~~)

2. 各県の案内情報によると、上の(1)～(3)の要望全てを満たすのはどこでしょうか。()

105

one hundred and five

図3
『Here We Go!』2年
Daily Life Scene 7

Q.4 やり取りにおける パフォーマンス評価は どうすればいいのでしょうか？



ALTとの一対一のインタビューで、「思考・判断・表現」を中心に3観点を見取ることができます。ここでは、例えば「ALTと親しくなって、お互いのことをよく知ろう」というような**インタビューの目的**を設定して、パフォーマンス評価を行うことが大切です。「知識・技能」では、**使われている英語の「正確さ」**を見取ります。「正確さ」については、a/theや三単現のsのような細かいミスではなく、誤解が生じるような大きな誤りがないかを見るようにしましょう。「思考・判断・表現」では、ALTにfollow-up questionをしたり、自分のことを詳しく述べたりしているかなど、コミュニケーションの**目的や場面に応じて「適切に」表現しているか**を見ます。「主体的に学習に取り組む態度」は、ALTから情報を得たり共通点を見つけたりするなど、**目的達成のために諦めずにコミュニケーションを図ろうとしているか**で判断します。



ALTとのインタビューの場合は、準備した質問への回答にならないようにALTから追加質問をするなど、インタラクションを促せるようにするといいですね。また、パフォーマンスタスクごとに**モデル例やループリック(図4)**をきちんと立てておくことも重要です。特に「思考・判断・表現」は、ABC評価の区別を理解していないと、単なる主観的評価になってしまいがちです。ABCの各評価の具体的なパフォーマンスの違いをイメージできるモデル例やループリックがあると、評価をしやすくなります。採点に関しては、コミュニケーションに影響を与えるような大きなミスがないかどうかを見るべきで、単なるミスの数で「正確さ」を評価したり、やり取りの回数の多さで判断したりしないようにしましょう。

評価の基準

	知識・技能	思考・判断・表現（態度）
A	正しい表現と発音で、質問に答えたり質問したりすることができる。	自分の答えに情報を加えたり、相手の答えに相づちを打ったり関連する質問をしたりしている／しようとしている。
B	おおむね正しい表現と発音で、質問に答えたり質問したりすることができる。	十分ではないが、自分の答えに情報を加えたり、相手の答えに相づちを打ったり関連する質問をしたりしている／しようとしている。

図4 1年 Unit 5 評価テスト「評価の基準」

まとめ

指導と評価の一体化

評価というと、評定につながる評価(総括的評価)に意識が向いてしまうことも多いでしょう。しかし、指導に生かすための記録に残さない評価(形成的評価)も、とても大切です。指導と評価の一体化とは、**形成的評価を通して指導と評価、学習と評価をつなぐ**ことです。教師は、生徒ができなかったことをなおざりにして評価をするのではなく、指導をどう改善すれば生徒ができるようになるのか、その指導方法を常に考えながら、生徒の学習改善につなげるようにしましょう。

また、ABC評価をする前に、工夫しながら粘り強く課題に取り組む態度を育てていく環境や授業作りに、もっと意識を傾けてみてください。言語習得のこつは、生徒の現状にほんの少し負荷を与える“**i + 1**”。粘り強く取り組ませるためには、教師が手立てを考えてあげることが必要です。生徒の様子を観察しながら手立てを考えて次の授業に生かし、取り残される生徒がいないよう、教師も試行錯誤しながら指導することも、同じように大切なのです。

評価は焦らず、長い目で

生徒は、1時間の授業内では変わりません。単元末や学年末につけさせたい力をCAN-DOと

して設定したうえで、具体的なパフォーマンス例をイメージすることが大切です。その際には、教師自身も実際にやってみて、無理がないかを確認してみてください。そうして設定したCAN-DOに向かって評価の逆向き設定を行い、指導と評価を一体化させていく計画を立ててみましょう。

年間授業時数140時間という**長期的かつスパイラルな学び**の中で、生徒の言語発達の様子を大きな視点で把握しつつ、単元末・学期末・学年末などで重点的に見取るようにします。見取り方も、正確さのみを重視した、目ざすべきモデルからの減点法ではなく、日々の指導を通して垣間見ることができる、個々の生徒の小さな伸びや、CAN-DO(何ができるようになるか)の部分的な積み上げをプラスする**加点法**を意識して、教師も粘り強く、しかし気軽に長期的計画を立てながら評価することを心がけてください。



おお た ひろし
太田 洋

東京家政大学教授。
光村図書 小・中学校英語教科書
『Here We Go!』編集委員。
著書に『英語の授業が変わる50のポイント』(光村図書)など。



なが ぬま なお き
長沼 君生

東海大学教授。
東京外国語大学専任講師を経て、現職。
光村図書 小・中学校英語教科書
『Here We Go!』編集委員。

Let's enjoy! Small Talk Lesson 2

[本日のトピック:食べ物]

株式会社イーオン 窪田 遼

はじめに

Hello, everyone. I hope you are well. I am Ryo Kubota from AEON.

今回は、先生のSmall Talkを児童に聞かせること(5年生のスタイル)を活動の中心に置きつつも、児童をうまく巻き込んで、対話的な活動にするためのヒントをご紹介します。

今回のトピック

『Here We Go!』5 Unit 7 What would you like?に関連した題材を取り上げます。このUnitは、“What would you like?” “I’d like …” “How much is it?” “It’s … yen.”など、レストランでの注文のやり取りに使える表現や、食べ物に関する語彙で構成されています。これらの表現を復習するという前提で、例を考えました。

「今日のお昼に食べたいもの」や「好きなメニュー」をテーマとしたSmall Talkで、Unitでの学習が自然に復習できる例になっています。これを参考に、ぜひご自身のSmall Talkを考えてみてください。

対話的なSmall Talk

①児童に問いかける

5年生のSmall Talkは、やり取りではなく、

話を聞くことが中心となりますが、児童どうしのやり取りはないものの、授業者と児童の間では、むしろ言葉の交換を入れたほうが効果的です。Small Talkの中で適宜、児童に質問を投げかけるようにしましょう。質問は、知っている英語で答えられる形になるよう工夫します。

今回の例(例1)では、いつもの“How are you?”の問いかけから、食べ物の話につながるようにしました。“How about you?” “What about you?”を使うと、自分の話を児童に向けることができます。このタイプの質問は、自分が話した後に相手に同じことを尋ねる形であり、答え方を事前に提示できるため、クラスルーム・イングリッシュとして適しています。また、“How about you?”に続けて、“Are you hungry, too?”と付け足すことで、児童にとってYes/Noで答えられる質問になっています。

②リキャスト(Recast)をする

児童に質問をすると、適切でない英語や日本語で答えが返ってきて戸惑うこともあるでしょう。ここで柔軟な対応をすることが、言語活動を充実させたり、児童に自信を与えたりするカギとなります。小学校外国語の評価の観点から知識・技能だけではないことを考えると、積極的に発言したことに対しては、ポジティブな対応

をしたいものです。ここで“No, that’s wrong.”と言ってしまったりは、児童が発言をためらうクラスになってしまいます。

そこで役立つのが、訂正フィードバックの手法の一つ、リキャスト(Recast)です。明示的に「それは適切でない」とは告げずに、自然な流れでよりよい表現に置き換えるのです。これで、発言自体を否定することなく、フィードバックを与えることができます。例えば、“I’d like pan.”と児童が言ったのに対して、“You’d like bread! That’s a good idea!”と返します。言語活動を不自然に止める必要がないのも大きな利点ですね。

③やり取りをクラス全体に展開する

先生と児童との対話を二人の間で完結させてしまうと、せっかくの集団の授業のよさが半減してしまいます。話をつなげて他の児童にも展開していきましょう。“What about you, Shuuka?”といった形でクラスの何人かに意見を聞いてみてもいいでしょう。さらにクラス全体に展開するには、次のように簡単な投票を行うのが楽しいと思います。

“You have three choices. Raise your hands. Who would like bread? Curry and rice? Fried Rice?”(3択です。手を挙げて。パンがいい人? カレー? 炒飯?)

Small Talk 例1

T: Hi, how are you?
Ss: I’m fine, thank you. And you?
T: I’m good, thank you, but I’m very hungry. How about you? Are you hungry, too?
Ss: Yes!

T: What would you like for lunch today?
I like spicy food. So, I’d like curry and rice for lunch. What about you, Kantaro? What would you like?
Kantaro: I’d like pan.
T: You’d like bread. That sounds good. What about you, Shuuka?

Small Talk 例2

T: Hi, everyone. What is this?
Ss: Menu!
T: That’s right. It’s a menu. This menu is from my favorite restaurant. What do you see?
Ss: Hamburgers! French fries!
T: Great. They have also spaghetti, pizzas, sandwiches, and pancakes. My favorite is the cheeseburger, but now I’d like the BLT sandwich. How much is it?
Ss: It’s 650 yen.
T: I see. It’s a little expensive. What about you, Hako? What would you like?
Hako: I’d like French fries.
T: That sounds great, too. How much is it?

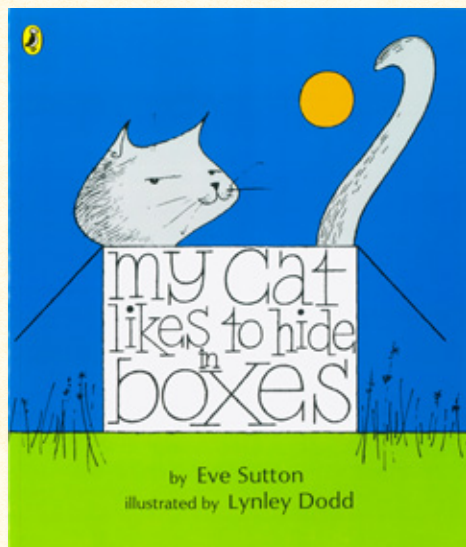


Small Talk 例の
音声はこちら

窪田 遼 くぼた・りょう
株式会社イーオン 法人事業本部
学校教育課 専任講師
留学経験なしでイーオンに入社し、イー
オンスクールでの教務主任を経て、2016
年6月より現職。
全国の自治体での教員研修を担当。特に、
小学校教員への指導には定評がある。
J-SHINE 小学校英語指導者資格保有。



子どものためのBOOKGUIDE



My Cat Likes to Hide in Boxes

著者：Eve Sutton
イラスト：Lynley Dodd
出版社：Puffin Books

欧 米には、cumulative taleとかcumulative songとかよばれるものがあります。いわゆる「積み上げ式」のお話や歌です。いちばん有名なのはThe House That Jack Builtでしょう。

1. This is the house that Jack built.
2. This is the malt
That lay in the house that Jack built.
3. This is the rat,
That ate the malt
That lay in the house that Jack built.

というふうに続いていきます。この形をうまく使った楽しい絵本がこれ。表紙を見てのとおり、ネコの絵本で、文章はこんなふうに続きます。

1. The cat from France / liked to sing and dance.
2. The cat from Spain / flew an aeroplane.
The cat from France / liked to sing and dance.

こんなふうが増えていって、最後は“The cat from Japan / waved a big blue fan.”から始まります。そして7か国のネコが勢ぞろい。それぞれ脚韻を踏んでいるのはわかりますよね。なので、ドイツのネコだけは“The cat from Berlin / played the violin.”と、国名ではなく都市名で紹介されています。短く歯切れのいい言葉で作られた詩と絵がとてもユーモラスで、特にノルウェーの太ったネコが玄関でつかかえているところは笑えます。

そのうえ、各国のネコとネコの間に必ず、箱に入ったネコの絵と“But MY cat likes to hide in boxes.”という言葉がはさまれます。これがまた、かわいい。どんな箱に入っているかは、本を開いてみてのお楽しみ。

どの詩も実にシンプルな作りになっているので、これをお手本に、みんなでいろいろな国のネコの詩を作ることできます。The cat from Turkey / lost the precious key.とか、The cat from Spain / loved the rain in plain.とか。

金原瑞人

かねはら・みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど580点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。

令和4年度

「言語教育振興財団」 研究助成金一般公募の お知らせ

助成内容

- ①言語教育の内容・方法に関するもの
(教育内容・方法部門)
- ②言語教育教材の質的向上に関するもの
(教材部門)
- ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)

研究期間

令和4年4月～令和5年3月(原則1年間)

応募資格

言語教育(国語、英語、日本語、道徳等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見なされる団体及び個人

助成件数及び金額

- ▶助成件数は60件程度
- ▶助成金額は1件につき原則として、
学校・団体20万～35万円、
個人15万～25万円

助成金使途の制限

- ▶助成金の使途は、研究に直接関係するものに限ります。インフラ整備のための物品購入は対象となりません。研修出張費は、交付額の30%を限度とし、研究に関係しない研修出張費は助成の対象とはなりません。

一般財団法人「言語教育振興財団」では、令和4年度も小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象として、今日の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成を行います。

応募方法・締め切り

- ▶研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、令和3年12月20日(月)必着で、当財団事務局に郵送のこと。
- ▶「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手(120円)を同封の上、当財団事務局までお申し込みいただくか、財団ウェブサイトから申請書をダウンロードしてください。

決定・発表・交付

令和4年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は3月末までに文書にて通知します。交付は、4月末までに指定された金融機関に振り込みます。

問い合わせ先

一般財団法人
言語教育振興財団 事務局
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-19-9
TEL&FAX 03-3493-7340
E-mail: gengo-k@star.ocn.ne.jp

※詳細につきましては、
財団のウェブサイト(<https://gengo-k.jp>)をご覧ください。



光村図書 小学校英語デジタル教材 マスターシリーズ

短時間で英語の基礎がしっかり身につくデジタル教材です。

電子黒板などに投影してみんなで活動したり、
タブレット端末で個別に学習したり、さまざまな活用が可能です。

- 5・6年生(外国語)向け35レッスン収録
- 指導者用・学習者用 両用
- 学校フリーライセンス 各27,500円(税込)
- 制作協力: 東 仁美(聖学院大学教授)

※1年間利用は8,800円(税込)でお買い求めいただけます。

※学校フリーライセンスは、指導者用・学習者用を問わず学校で管理しているすべての端末でお使いいただけます。

※価格には、サーバーやパソコンへのインストール費用は含まれておりません。

アルファベットマスター

これ1本で
読み書きは完璧!

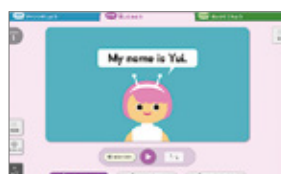
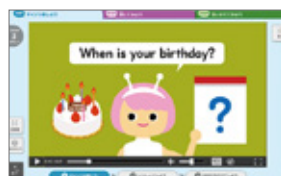
スモールステップの積み重ねで、アルファベットの読み書きが定着します。



リズムマスター

思わず口ずさみたくなる
楽しいチャンツ!

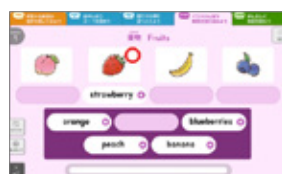
英語の重要表現をチャンツでマスターすることができます。



ワードマスター

単語力・表現力
アップ!

単語を「聞く」「読む」「声に出す」のスモールステップで定着させます。



体験版、詳しい情報はこちらから。

www.mtsunura-tosho.co.jp/2020s_digital/products_s/index.html

好評発売中



小学校 教室英語ハンドブック

向後秀明 土屋佳雅里 ジョージ・クマザワ 菅井幸子
定価: 990円(税込) / A5判 / 80ページ / ISBN978-4-8138-0102-3

英語の授業を支えるクラスルーム・イングリッシュを、
ハンディな1冊に。



- 挨拶や褒める表現、ALTとの打ち合わせで使う表現など、すぐに役立つフレーズを精選しました。
- 姿勢やジェスチャーはイラストでわかりやすく紹介し、意識したいことは「一言コメント」や「コラム」で紹介しています。
- 巻末には、教室英語の一覧表が付いています。
- すべての音声は、無料でダウンロードすることができます。
- 校内研修の資料としてもおすすめです。

ご注文は、お近くの書店または弊社ウェブサイトで。

光村図書出版株式会社 www.mtsunura-tosho.co.jp

学びをわくわくさせるのは
デジタル教科書だ。

好評
発売中!



Digital Textbooks & Learning Materials

光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材

ラインナップ

■ 令和2年度版小学校教科書準拠

学習者用デジタル教科書【ユーザーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各550円

学習者用デジタル教科書+教材【ユーザーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各990円

指導者用デジタル教科書(教材)【学校フリーライセンス】

Here We Go! 5・6 …各63,800円/20,900円(1年間利用)

■ 令和3年度版中学校教科書準拠

学習者用デジタル教科書+教材【ユーザーライセンス】

Here We Go! ENGLISH COURSE

1～3 …各990円

指導者用デジタル教科書(教材)【学校フリーライセンス】

Here We Go! ENGLISH COURSE

1～3 …各82,500円/27,500円(1年間利用)

*価格はすべて税込みです。



表示ソフトウェアは、
「まなビューア」を
採用しています。



▼ 詳しい商品情報はこちら

www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_digital

小学校英語デジタル教材

マスターシリーズ

【学校フリーライセンス】

アルファベットマスター

27,500円/8,800円(1年間利用)

リズムマスター

27,500円/8,800円(1年間利用)

ワードマスター

27,500円/8,800円(1年間利用)

英語 Here We Go! 相談室
教育 | No.09 |

2021年10月11日発行

発行人 ● 吉田直樹

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)

イラスト ● 小林マキ

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社



光村図書

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。